

Nursing Now ～看護の力で大阪を元気に～



公益社団法人 大阪府看護協会 会長

日本WHO協会 理事

高橋 弘枝

大阪大学医療技術短期大学（現在廃止）卒業後、1981年旧大阪厚生年金病院に就職。1988年旧大阪厚生年金看護専門学校専任教員、教務部長を経験し、1999年旧大阪厚生年金病院看護婦長、看護部長を歴任。2014年改組よりJCHO大阪病院看護部長。2015年JCHO本部企画経営部医療副部長を経て、2016年6月より現職。認定看護管理者。

はじめに

2020年は『国際看護師・助産師の年』、そしてナイチンゲール生誕200年の『Nursing Now キャンペーン』の年でした。大阪府看護協会は本誌において日本WHO協会との共同企画『看護師・助産師・保健師を応援しよう！』として国内外の第一線で働く看護職や看護学生の生の声を2020年秋号～2021年春号の3回シリーズで掲載いたしました。

本来なら2020年に開催予定であった当協会のNursing Now キャンペーンイベントは、コロナ禍で延期。そして迎えた2021年6月30日 キャンペーン終了の日に、今だからこそ協会からエールを発信したい！との思いで「看護の力で大阪を元気に」をコンセプトに、感染対策に万全を期してイベントを行いました。

当日は収容人数300名の会場に、定員を絞り込み、来賓、講師および関係者126名が参加。ご参加いただけなかった多くの方々にイベントの熱気をお伝えするため、1年間アーカイブ配信しています。

座談会 大阪コロナ最前線 ～危機的状況を救う看護の力～

コロナ禍における看護協会の活動を紹介

新型コロナウイルス感染症の拡大により昨年4月に緊急事態宣言が発令されて以降、大阪府看護協会では宿泊療養施設、検体採取外来、大阪コロナ重症センター、ワクチン接種対応、介護福祉現場などへ看護職員を派遣してきました。座長講演では、これらの活動を紹介いたしました。

その場で即座に判断し最適な看護を

トークセッションでは、宿泊療養施設看護師の芝野光紗さん、大阪コロナ重症センター看護師の西美和さん、検体採取外来・コロナワクチン接種対応看護師の永井知美さんを迎え、コロナ対応の看護現場での悩みや喜びについて語り合いました。

COVID-19 対応看護師へ応募した理由を「何か力になれば」と考えたという3人。家族が背中を押してくれたことで決心がついたそうです。

コロナ対応で求められる看護は平時とは異なり、その場所に応じてケアの工夫が必要です。宿泊療養施設に携わる芝野さんはベッドサイドで寄り添うことができないなか、心のケアを一番に考えて電話で声かけや相談に乗り、声色の変化を観察。西さんは全国から大阪コロナ重症センターに派遣されている看護師と話し

合い、当初は不可能だった家族の面会や看取りをオンラインでできるようにするなど、より良い看護につながるように常に改善。永井さんは、不安を抱えて検体採取に来る方々の恐怖心や不安を取り除き、唾液採取が可能かを即座に見極め、最適な方法を案内することに注力。現場のリアルな声に会場の全員が聞き入っていました。

看護学生の力強い言葉に未来を託す

最後は、3人の看護師からコロナ禍で現場実習が困難な看護学生へエールが送られました。看護学生からは「寄り添う心の大切さを感じました」「看護師の言葉が患者さんにどれだけ重要かを改めて感じました」と感想が述べられました。また、厳しい状況下で看護実習が行えることへの感謝の言葉もあり、看護学生の前向きな姿勢に明るい未来が見えました。



コロナ禍のリアルな看護現場を語った座談会

「いのち」と「くらし」を守るミニ講座

「ワクチンと変異株」「漢方」について 専門家が解説

イベント後半はゲストを迎え、「いのち」と「くらし」を守るミニ講座を開催しました。大阪大学免疫学フロンティア研究センター、招聘教授で大阪大学名誉教授の宮坂昌之先生は、免疫学の専門家の立場から、新型コロナウイルスの変異株がなぜ出現するのか、ワクチンは感染予防、発症予防、重症化予防に高い効果があり、安全性は既存のワクチンと同等であることについてデータを交えて解説されました。

続いて河内長野市医師会会長で山口診療所院長の山口竜司先生は、漢方薬が体の調子を整え、コロナに打ち勝つ体づくりに役立つことを4つの漢方薬をあげて紹介。患者さんの不安を軽減することについてご講演されました。

11支部から現場レポート

大阪府看護協会11支部の理事の皆さんがコロナ禍の中で体験した現場での対策や気づき、学んだことなど、「看護の現場から今、伝えたいこと」を写真とともに紹介。各現場で看護師が頑張っている姿に参加者の皆さんは見入っていました。

看護学生の意見・感想から、「看護はどんな場所、状況であっても工夫しながら提供できると思いました」「どんな思いで看護しているかが伝わり、その思いを忘れないようにしたいと思います」と貴重な体験の場となったようです。

Nursing now ～看護の力で大阪を元気に～

日時：2021年6月30日（水）13:30～16:30

場所：ナレッジシアター（グランフロント大阪 北館4階）

開催形式：オンラインとのハイブリッド形式

【プログラム】

●開会／オープニングムービー上映（司会：高井 美紀/MBS アナウンサー）

●主催者挨拶 大阪府看護協会 会長 高橋弘枝

●来賓ご挨拶

- ・一般社団法人ナレッジキャピタル 専務理事 小田島 秀俊 氏
- ・公益社団法人日本 WHO 協会 理事長 中村 安秀 氏
- ・公益社団法人日本看護協会 会長 福井 トシ子 氏
- ・大阪大学大学院医学系研究科 未来医療学 寄附講座 教授 澤 芳樹 氏

●看護職へのエール 大阪サクヤヒメ表彰受賞者・関係者有志一同

●座談会「大阪コロナ最前線～危機的状況を救う看護の力～」

- ・座長講演／今こそ看護の専門性を発揮 そして未来へ
- ・トークセッション／座 長：大阪府看護協会 会長 高橋 弘枝

登壇者：宿泊療養施設看護師 芝野 光紗 氏

大阪コロナ重症センター看護師 西 美和 氏

検体採取外来・コロナワクチン接種対応看護師

永井 知美 氏

●Nursing Now ことばのリレー

感染管理認定看護師・新人看護師・男性看護師・訪問看護師・看護学生

●講演「笑いと看護」 W マコト

●「いのち」と「くらし」を守るミニ講座

- ・新型コロナウイルス：ワクチンと変異株／大阪大学免疫学フロンティア研究センター・招へい教授 大阪大学名誉教授 宮坂 昌之 氏
- ・コロナに負けない！漢方の力／河内長野市医師会会長、山口診療所院長 山口 竜司 氏
- ・看護の現場から今、伝えたいこと／大阪府看護協会11支部

●閉会／エンドロールムービー上映 大阪府看護協会11支部

【展 示】人々の暮らしを支える取り組み

●開催期間：2021年6月30日（水）～7月30日（金）

●会 場：ナレッジキャピタル ザ・ラボ（グランフロント大阪 北館2階）



来賓挨拶 日本WHO協会 中村安秀理事長



「いのち」と「くらし」を守るミニ講座 最新のワクチンと変異株を解説する宮坂教授

当日はこんな講座もありました

Wマコトの「笑いと看護」

医療現場はストレスが多いもの。当日は元吉本芸人のWマコトによる「笑い」と題したセミナーも開催しました。「笑顔の価値は？」などのクイズに参加者が答えるなど、会場を巻き込んでの楽しいトークにみんなが笑顔に包まれました。

医療関係・行政・企業の協働展示

同時に2021年6月30日から1ヵ月間、ナレッジキャピタル ザ・ラボ（グランフロント大阪北館2階）にて、展示プログラム「人々の暮らしを支える取り組み」を開催いたしました。

会場では、大阪府看護協会の活動を紹

介するだけでなく、関係団体、行政、協賛企業から動画資料や冊子等をご提供いただき、広く府民のみなさまに、看護現場の状況を報告するだけでなく、生活衛生等についての啓発メッセージをお届けしました。

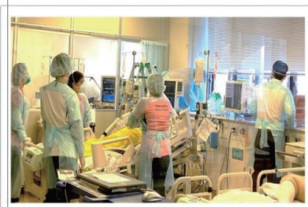
来場者の中には、健康体操の動画に合わせて親子で体を動かしたり、感染予防の映像を熱心に視聴されていました。



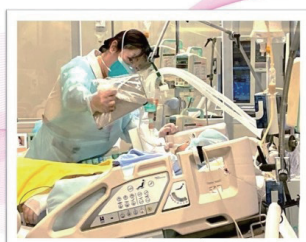
座談会 座長講演資料 状態が進行した感染者を宿泊療養施設から病院へ緊急搬送

参加者の声を紹介

- ・充実したプログラムでトークもグローバル、ミニ講座もおおいに参考になりました。 — 医療関係者
- ・座談会では看護職の方が悩みながらも、工夫されていることをヒシヒシと感じました。 皆さん誇りと使命感を持ってこの事態に向き合っておられることがとてもよく感じられました。 — 協力・協賛
- ・看護学生さんの感想を聞きながら、私自身が元気をいただけたとともに、本日のイベントを通してリフレッシュでき、明日からまた頑張ろうと思えました。 — 看護師
- ・早速アーカイブ版を見た教員が「看護の日の行事で学生全員に見せたかった」と申しておりました。 — 学校関係者
- ・看護職の方々、看護職を目指す方々の意識の高さに感銘を受けました。アーカイブ配信は早々に社内関係者全員に共有しました。 — 協力・協賛



オンライン面会は集中治療室でも



大阪府看護協会

「いのち」と「暮らし」を守るミニ講座 11支部からは臨場感あふれるコロナ禍の医療現場の貴重な映像を紹介 — 会場のあちこちからすすり泣く声も・・・



大阪府看護協会11支部によるエンディングムービー



同時開催の展示会場では1ヵ月間「人々の暮らしを支える取り組み」を紹介親子で動画を楽しむ来場者

まず、昨年より発生しました、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方、今闘病中の方、あらゆる影響をうけておられる皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。また、医療、福祉、介護の現場で日々従事されている皆さまに対し敬意を表しますと共に、心から感謝申し上げます。

さて昨年は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの生誕200年を迎え人々の健康の向上に貢献することを目的に「Nursing Nowキャンペーン」が世界的に開催されてきました。これは英国の議員連盟が活動をスタートさせ、WHO（世界保健機関）とICN（国際看護師協会）が賛同して、世界117か国でキャンペーンが行われています。当協会も、2020年5月「看護の日」にキャンペーンイベントを計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言により延期となりました。2021年6月末をもってキャンペーンが終了となりますので、「看護の力で大阪を元気に」をコンセプトとして「Nursing Nowキャンペーン」のイベントを行う事といたしました。

今、日本は少子高齢社会を迎え、医療環境が急激に変化しています。また昨年から発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療逼迫に対応する看護職への期待が毎日のように報道されてきました。奇しくも新型コロナウイルス感染症を通して、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、健康課題への取組みの中心に立ち、人々の健康の向上に努めていることは、まさにNursing Nowキャ



定員300名の会場は座席の前後左右に風船を配し密を防ぐ工夫を施す

ンペーンの主旨であります。当協会は、昨年4月の緊急事態宣言以降、宿泊療養ホテル、検体採取外来、大阪コロナ重症センター、ワクチン対応、介護福祉現場等へ看護職員を派遣してきました。これらの活動を通して、社会からかつてないほど看護職への関心、期待が高まっていることを痛感しています。この「Nursing Nowキャンペーン」を通して、看護の存在価値が師社会的に認められ、看護のすばらしさを皆さまに理解して頂くことで、看護の力を十分に発揮するうえでの励みとなると思います。一方、看護職の活動が、社会に適切に評価され、保健医療政策に影響を及ぼすことが重要であり、そのためのさまざまな条件や環境の整備も必要であると考えます。これからも、職能団体として、看護職がその力と可能性を最大限に発揮し、人々の健康な暮らしに貢献できるよう尽力してまいります。皆さまのご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。



アーカイブ配信をご覧ください!!

当日の様子は YouTube で一年間配信しています。
看護職はどうコロナと向き合ったのか、
看護職の働く場所や機会が幅広くあることなど、
看護職はもちろん、看護学生、市民の方々にも
ぜひご覧いただきたい2時間半のプログラムです！

